

【善通寺市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

善通寺市においては、AIドリル等を活用した「個別最適な学び」を実現するとともに、ICTの活用により、様々な緊急事態などにおいても、児童生徒の学びと家庭と学校のつながりを止めない「誰一人取り残すことのない教育」を目指す。

2. GIGA第1期の総括

コロナ禍における学びの保障を実現するため、児童生徒に1人1台端末をはじめとした学校ICT環境の整備を完了させたところであるが、環境整備が完了した後のICT利活用の取り組みについて、学校間、教員間で差が生まれていることが課題として挙げられる。

ICT利活用においては、各学校ごとに主体的に取り組を進めてきたが、児童生徒・教員個々人の知識・技術が取り組み状況に影響を与えている面も少なくない。人事異動により新たに本市の学校に勤務することとなった教員については、異動元の市町との環境に差異があることもICT利活用推進の阻害要因となっている。

児童生徒が主体的にICTを用いた個別最適な学習に取り組むことができるよう、情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育む。また、県内他市町と一定程度統一することにより、教員がICTを活用した教育に取り組みやすい環境を構築していくことが必要である。

3. 1人1台端末の利活用方策

【総論】

1人1台端末の利活用方策として、個別最適化された学びを実現するために、引き続き1人1台端末環境を継続しつつ、端末の利活用そのものを目的とすることなく、授業等での適切かつ効果的な活用と児童生徒の主体的な活用を経て、未来の社会で生きていくために必要な資質・能力を育む。

【1人1台端末の積極的活用】

児童生徒が1人1台端末を自ら考え主体的に活用していくために、学校生活におけるICT機器の使用が当たり前のこととなるよう、日常的な端末利用が重要であると考ええる。

それを実現するため、教員向けの研修の実施等により、具体的な利活用例を提供することで授業等での利活用のハードルを下げ、積極的な活用を促す。

【個別最適・協働的な学びの充実】

デジタルドリル等の学習記録をデータとして蓄積させ可視化することにより、自分自身に合った進度での学習を主体的に進められるよう環境を整備し、児童生徒一人ひとりに合った資質・能力の育成を図りつつ、並行して授業支援ツールや整備済みの電子黒板を活用した発表などを通し、多様な思考を持った他者との相互理解、互いに協力しての課題解決能力の育成を目指す。

【学びの保障】

不測の事態により全員が一斉に登校しての授業実施が困難になった場合や、様々な理由により登校が難しい児童生徒、その他特別な配慮や支援が必要な児童生徒に対し、ICT機器の活用により、「誰一人取り残すことのない教育」を目指す。